市ひきこもり支援センター開設記念フォーラム

「ひきこもり」に理解と適切な支援を

市ひきこもり支援センター〝ワンタッチ〟が開設したことを記念して、7月23日、総合福祉センターでフォーラムが開催され、参加した約200人がひきこもりについて理解を深めました。

西田和弘ひきこもり支援等検討委員長に、先進地の事例や支援のあり方について熱く語った

フォーラムは、ジャーナリスト池上正樹さんの講演で幕開け。池上さんは、「ひきこもりの当事者は、人生に対して絶望感や諦めをもちつつも、どこかに希望を抱き、生きる道を模索している」と説明。支援については、「一律のメニューで一律の支援をするからズレが生じる。当事者の居場所とは、『場所』ではなく『人』。実態を把握し、本人のためになっているかを考えながら支援にあたる人が必要」と訴えました。

講演に続いて、池上さん、西田和弘ひきこもり支援等検討委員会委員長、川上富雄駒澤大学文学部社会学科准教授、中井俊雄ひきこもり支援センター長による座談会が行われました。

座談会では、支援センター開設以降新規で50人が相談に来ていることを西田委員長が報告。池上さんは、「50人から貴重な情報が入り学ぶことが多い。それによって後ろにいる多くの当事者が望むものがみえてくるのでは」と、これからの支援に期待を込めました。

また、西田委員長が、「原因が分かってもなくならないのがひきこもり問題の難しさ」と述べると、川上准教授は、「解決のアイテムを多数用意して、当てはまるものを探すことが大切」と。池上さんは「一対一の伴走型支援でつながりの場をつくり出していくことが重要だ」と支援について語り、中井センター長は、「情報発信を大切にしていきたい」と述べました。

市では、ひきこもり支援センターを軸に、1人でも多くの人への支援を開始していきます。

ひきこもり支援等検討委員会
西田和弘 委員長

ジャーナリスト
池上正樹 さん

駒澤大学文学部社会学科
川上富雄 准教授

ひきこもり支援センター
中井俊雄 センター長

ひきこもり支援センター“ワンタッチ”では、ひきこもりに関する相談について、専門のスタッフが一緒に考えます。一度、話してみませんか？

■問い合わせ
市ひきこもり支援センター“ワンタッチ”
☎0866-92-8597
Eメール soudan@sojasyakyo.or.jp

10月から変わります

家庭で廃棄する蛍光管は市役所、各出張所、東・西公民館で回収

家庭で廃棄する蛍光管は、これまで燃やせないごみの日に回収していましたが、10月からは資源ごみとして市役所や各出張所などで回収します。

蛍光管を出すときは、回収場所まで持参し、職員に渡してください。

この回収は、水銀で環境が汚染されるのを防ぐ水銀汚染防止法に基づき実施するものです。

問い合わせ　環境課美化推進係（☎㊾ 8338）

【回収の対象となるもの】

◆直管型、リング型、電球型などの蛍光管
◆水銀灯の電球
※大きさや形は問いません

※ＬＥＤランプや白熱電球は水銀が含まれていないため、従来どおり燃やせないごみとして出してください

【出し方】

市内の保育所や幼稚園で働いてみませんか

保育士・幼稚園臨時職員などの登録

保育士などの資格をもっている人、資格がなくても関心のある人は、こども夢づくり課で登録してください。保育士などを募集している市内の保育所、幼稚園、放課後児童クラブを紹介します。

総社市保育士支援金

市では、保育人材の確保を目的に、市内の私立保育所などに勤務する人に対して、一定の要件を満たした場合２万円を直接支給します。受給するには申請が必要です。

対象となる要件などは次のとおりです。

期間　４月１日から平成30年３月31日㈯まで
職種　保育士、調理師、栄養士、事務員など
要件　①６カ月以上勤務した人
②１日６時間以上で月20日以上勤務した人
③１年以上の労働契約を結んでいる人
その他　申請方法などは、市ホームページなどでお知らせします
申請先・問い合わせ　こども夢づくり課（☎㊾ 8265、http://www.city.soja.okayama.jp）